

山脇学園高等部卒業後、4年間商社勤務。61歳でマイクロソフト社の「MOUS初級」を取得。現在、パソコンシルバー会を主催。

「シルバーパソコン塾の窓から」

自分では有料ボランティアのつもりで、自宅で小さなシルバーパソコン塾を昨年開いた。既に高齢者と言われる六十五歳であった。

四十二歳の時自活する必要に迫られたが学歴も高卒で特技や資格もないためブティックや宝石店などで販売員として働いてきた。六十一歳で退職し、それからパソコン教室で一番易しい初級の免状を取得した。

人と少し違うところと言えば、二十数年間通勤電車で常に本を読んでいた事位だろう。

思えば昔は電車の中で本を読んでいる若者が多かったが、最近ではほとんど見かけないのはどういうことなのだろう。

閑話休題、子供が独立し老親達も旅立ち、これから自由な長い老後が待っている方へ、一年余り五十数名のシルバー世代とパソコンを通して交流した感想を伝えたい。

受講生の最高齢は八十六歳で大正生まれは今までに五名受講し、六十代は七十代より少し多い程度だ。動機はインターネット、メールをしたい、年賀状を作りたいなどだ。

二十回を終了した時、七十五歳の無口な男性は同期会の案内状をイラスト入りで見栄えよく作る事が出来た。

パソコンのマウスの操作は、加齢と共にぎこちない動きの人も多くなるが練習すればいずれ解決するから大した問題ではなく、考え方の柔軟性と根気のあるなしが重要だ。

今習った方法を以前に教わった別の事柄に付け加えて自分で膨らませてみるとか、習得した技術を応用してみるとかで関連付けが出来てくる。そうするには学校で習った知識のほかに職場や家庭などでの実利的な方法、読書、音楽、絵画等からの感動が有機的に脳内ネットワークとして機能している事が重要だ。横のつながりが無く一つの操作方法だけが独立してしまうとどうしても一度押し込んだものが頭からスルスルと抜け出す。

永年人の上に立っていたからとか家庭をしっかりと健全に維持出来てきたからと言って、そのネットワークが今も健在とは限らない。

オヤッと思ったら人名辞典、年表などを操れば綻びた網はすぐ塞がる。安上がりだし思わぬ拾い物をする事もある。事に当って適切な解決方法を見つけ出せる柔軟な思考力を望むなら常に頭を自分で耕しておく事だ。

次にパソコンに関しての根気の問題だが、パソコンの解説書はやはり読みにくい。

此处で過去に難解な本を斜め読みしなかった人達にご褒美が出る。このグループには根気よく語句をつぶしながら文章を読解する習慣が付いているから読みこなす事が出来るのだ。しかし負け組みになってもめげてはいけない。遅ればせながら根気よく解らない言葉をパソコン用語辞典で引きながら、段落ごとにゆっくり理解してゆくのだ。急ぐ必要は無い。

やる気のある人はMY用語辞典を作っている。自分から能動的に獲得しに行った知識は、自分が消化できる量なので忘れにくい。

しかし物忘れ対策には反復練習だけが有効手段という事もでてくる。それを努力と言う姿勢ではなく楽しみとしては如何だろうか。時間はたっぷりあるのだ。

期待される老人像は、ご大層なものではない。健康問題は専門家に譲るとして次の枠組みを守った後はボランティアよし趣味に生きるもよしで、自由に最終章を飾ればよい。

- 1 横着をせず常に頭を耕しておく
- 2 過去の栄光を語らない
- 3 体の不調を訴えない
- 4 人の話をよく聴く

この最後の項目がなかなか厄介で、明るく元気な人達はややもすると独演会を演じている。これは厳に慎みたい。